

はじめに

白熱道徳教室へようこそ！みなさんは道徳が教科になったことを知っていますか。それだけ大切な学びとして、積み重ねていこうということです。道徳を学ぶうえでは、みなさんの心が何かを感じ、それを友達と議論したい、日常生活の中に活かすことが重要です。

道徳について考えるきっかけは、日常生活のいろいろな場面に見えかれています。それは、スポーツの世界でも同じ。いえ、スポーツの世界だからこそ、とても色濃く道徳的な考え方方が大切にされています。

この本では、スポーツの世界の、思わず涙したり、拍手を送りたくなったりするような、感動的なエピソードがたくさん紹介されています。

それらの中にどのような意味や価値があるのかというポイントが、フクロウ先生と子どもたちとの対話で読み取れるようにしています。

ですから、みなさんにも、フクロウ先生たちと一緒に考え、道徳的価値の本当のよさを理解し、「人間っていいなあ」「自分もこうなりたいな」と思ってもらえるとうれしいです。様々な人のよさに触れていくことで、いつしかあなた自身も、本に出てくるスポーツ選手たちにも負けないくらい魅力的で、素敵なお人間になっていくことでしょう。

1巻目のテーマは、「自分をみつめる」こと。イチロー選手や浅田真央選手のエピソードとともに、深く考え、話し合いたくなるような「議論のきっかけ」を紹介しています。

これを読んだみなさんは、自然に「あれ？ どういうことだろう」と考えたり、「どう思う？ ちょっと意見を聞かせてよ」と話し相手を見つけることでしょう。

あなたは、どんなことを感じるかな？ 正解はありません。自分の心に残った何かが、これからのみなさんの人生の指針になるかもしれません。新しい道徳の心の旅へ、いってらっしゃい！

この本の使い方・キャラクター紹介……04

EPISODE 1



イチロー選手はどうして記録にこだわらなかったのか……06

EPISODE 2



これまでの努力が浅田選手の気持ちをどう変えたのか……12

EPISODE 3



自分らしさってなんだろう——白井選手が目指したもの……18

EPISODE 4



パラリンピックに夢をかけるのは選手だけか——義足研究者、遠藤さんの願い……24

みんなの考えは、どう変わった?……30

この本の使い方

STEP

1

ひとりで考える

本を読みながら、自分はどう思うか考えてみてね。漫画や会話には、思考のヒントがつまっているよ。自分なりに考えて思考の世界を広げることを、「哲学」というんだよ。



STEP

2

家族や友達と話し合う

テーマについてお互いにどう思ったのかを話し合ってみてね。家族や友達と話し合うと、一人では考えられなかったことにも気付くかもしれませんよ。



STEP

3

クラスみんなで話し合う

自分が思ったことを素直に言ってみてね。友達の意見を聞いて自分でもう一度考えてみると、新しいものが見えてくるかも。それを「議論」というんだよ。



STEP

4

実際に試してみる

「こういう考え方もあるんだ」「この人のこの行動なんかいいな」って思ったことがあったら、日常の生活で、試してみよう。試すのが難しい人は、他の人がどうしているのかをまずはよく観察することからはじめてみてね。

キャラクター紹介



フクロウ先生

ものしりでいつも優しいクラスの先生。「人生の哲学」というものを大切にしている。



リスくん

フクロウ先生の助手。ひねくれものでいじわるばかり言う。



ちゃんとしろう

学級委員長。ルールに厳しすぎて、頭が硬いが、クラスをまとめようといつも一生懸命。

クラスで飼っているカメくんをかわいがっている。



げんきよしこ

いつも元気で、天真爛漫。おっちょこちよいだが、人とは違う自由な発想ができる。好きな食べ物は、メロンとんかつ。



そうかもううた

自信がなくて気が弱いので、自分の意見を発表するのが苦手。だけど、ゆっくり時間をかけて、一人で考えるのは得意。サッカーが大好きで、みんなに優しい。



アロハロコ

お父さんの転勤でハワイから来た、気が強いしっかり者。自分の考えをはっきり伝えるまっすぐな性格。将来の夢はダンサー。



おちょうしのりお

クラスのムードメーカー的な存在で、だいたいふざけている。人の意見にながされやすく、意見がコロコロ変わりがち。給食が大好きでいつもおかわりをする。

イチロー選手は どうして記録に こだわら なかつたのか

イチローは、日本プロ野球で7年連続首位打者となり、メジャーリーグでも数々の記録をもつ名選手だ。1994年の日本プロ野球、イチローのチームは優勝を果し、残り4試合。イチローは、残りの試合に出なければ打率の日本新記録が確定する。もし試合に出てヒットが打てなければ、打率が下がってしまうかもしれない。

